Community Liaison Activities

「心豊かな活力ある社会」の実現に向けた文化遺産保護政策はどうあるべきか？

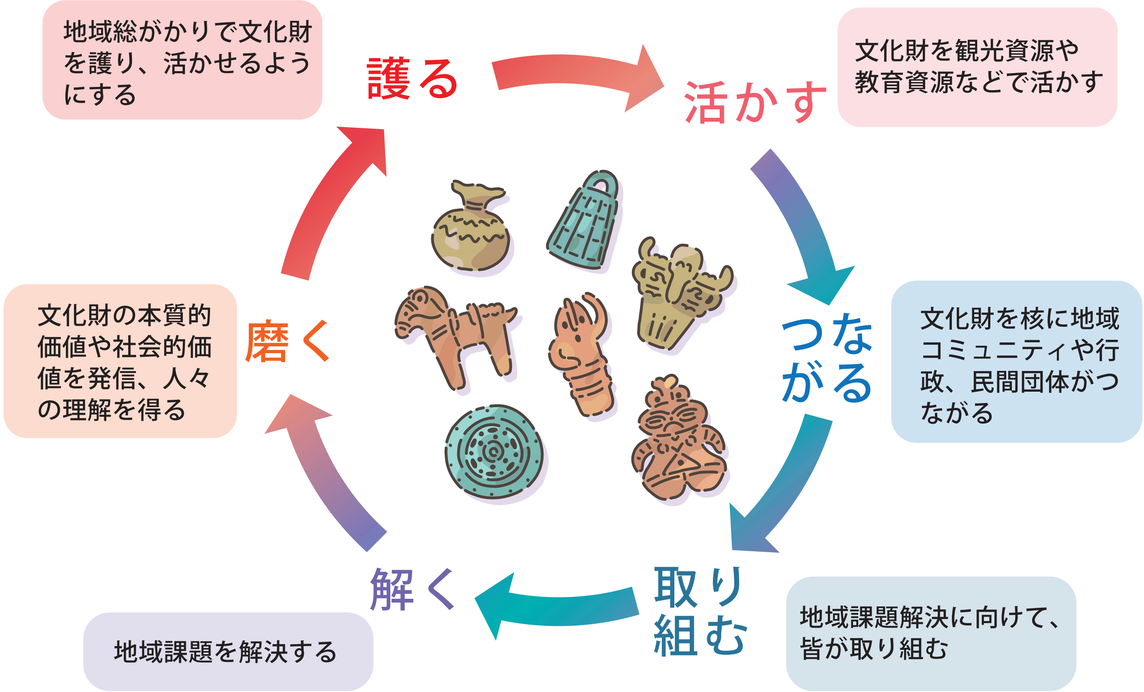
ゼミナール活動の趣旨

土屋政策ゼミナールⅠ・Ⅱでは、自治体や地域の方々と連携しながら、実践的に地域課題に取り組むことを通じて文化政策を学んでいる。文化政策とは、芸術文化の振興や文化財保護などが挙げられる。

しかしそれは、文化政策の通過点であり、最終目的は、「心豊かな活力ある社会の形成」（文化芸術基本法前文）を目指すものである。より具体的に言い換えれば、その人がその人らしい生き方が可能な社会の実現であり、一人一人の人権が尊重される環境を整えることにある。この基本的人権が尊重される社会を目指す文化政策の具体的・実践的な方法を模索することが、ゼミナール全体のテーマとなっている。

現在ゼミ活動として取り組んでいること

- ３・４年生合同で基礎自治体の文化財保存活用地域計画づくりに向けた調査を自治体と連携しながら進めている。文化財保存活用地域計画とは、文化財保護法に基づき、各市町村において取り組んでいく目標や取り組みの具体的内容を記載した、当該市町村における文化財の保存・活用に関するマスタープラン兼アクション・プランである。
- この地域計画により、地方自治体は、計画的かつ持続的な文化財の保存と活用が可能となる。また、地方自治体のみならず、民間団体や地域住民の理解や協力を得ることで、地域総がかりでの文化財の保存・活用を目指すことが可能となる。
- 土屋政策ゼミナールでは、文化財保存活用地域計画の趣旨に基づき、下記の仮説のもとに自治体と連携した計画づくりに取り組んでいる。



東秩父村を知る

総面積　37.06 平方キロメートル
人　口　2,417 人（男 1,212　女 1,205）
世　帯　1,050

※2024 年 10 月 1 日現在
東秩父村 HP より

東秩父村は県内唯一の村。季節ごとに様々な花々が咲き誇る自然豊かな「花の郷」で、１年を通じてハイキングなど多くの人々が訪れる。

また、ユネスコ無形文化遺産の和紙「細川紙」の産地として知られ、道の駅「和紙の里ひがしちちぶ」では、紙漉きやそば・うどんの手打ち体験が出来るほか、地元の特産品やお土産も販売している。

秩父郡東秩父村と城西大学は 2024 年 1 月 31 日、相互連携に関する基本協定を締結。包括的な連携のもと、産業、文化、学術等の分野で相互に協力し、地域の発展と人材の育成に寄与することを目的としている。

連携協力事項

（1）地域の活性化及び産業の振興に関すること
（2）まちづくりに関すること
（3）健康、食育、福祉の増進に関すること
（4）環境の保全及び整備に関すること
（5）教育、文化、生涯学習、スポーツの振興に関すること
（6）人材の育成に関すること
（7）学術研究に関すること
（8）地域食材等を活かした食品開発・学術研究に関すること
（9）インターンシップ等の現地学習に関すること
（10）施設の利用に関すること
（11）その他、両者が協議して必要と認める事項

東秩父村を舞台にした映画の上映

2024 年 7 月 10 日（水）、土屋政策ゼミ主催の「若者は山里をめざす」（監督・撮影・編集：原村政樹）上映会を行った。

当日は原村政樹監督をお招きし、上映後、現代政策学部 奈良澤教授との対談の時間を設けた。

上映会後の対談の様子

映画「若者は里山をめざす」公式サイト
https://wakamono-yamazato.com/

映画「若者は里山をめざす」あらすじ

近年東秩父村に都会暮らしをやめ移り住む若者たちが増え始めた。村出身の西沙耶香さんは、コンビニもないこの村から出たいと高校卒業後上京。だが、ふるさとを消滅させたくないと仕事をやめ村に戻ってきた。

東京出身の高野晃一さんは、地域起こし協力隊に応募して採用された元銀行員。村の特産品であるノゴンボウに着目し村の特産品として開発を進め、地域に溶け込み移住を決意した。

他にも和紙職人を目指す青年や芸大卒の女性、鬼太鼓座の若者たちも、村に住む戦前・戦後を生きた先輩たちと交流しながら生きる知恵を身につけていく。

映画「若者は里山をめざす」公式サイトより

土屋政策ゼミナールの学生の他、学内からも参加者を募り、映画を通じて東秩父村の文化や特産品、課題など様々な側面を知ることができた。

東秩父村での現地調査

土屋政策ゼミでは「現場で（から）考える」を大切にしており、現場で考える⇒問題解決の提案のトレーニングとして、 2024 年 9 月 14 日（土）～ 16 日（月）実際に東秩父村へ出向き、現地調査の合宿を行った。

2024 年 9 月 14 日

- 東秩父村「和紙の里」にて和紙の紙すき体験と和紙生産や竹縄生産に必要な民具の見学
- 東秩父村立図書館にて、文献調査

紙漉き体験

民俗文化財の見学

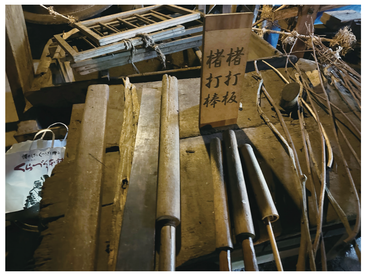
文献調査

2024 年 9 月 15 日

- 和紙工房にて生産者の方にお話を伺う。（和紙の生産工程や後継者育成の難しさ、海外向けなどの販路の拡大について。）

和紙工房での聞き取り調査

和紙工房見学



和紙の生産用具

和紙の生産工程の一部

楮（こうぞ）を煮たところ①

楮（こうぞ）を煮たところ②

塵取り（楮のゴミを取り除く）

繊維を均一化させるために混ぜる「トロロアオイ」

楮畑の見学

- 和紙の原料である楮畑の見学
- 中世の山城、安戸城跡の踏査
- I ターンでご家族で移住された Y ご夫妻からお話を伺う。

2024 年 9 月 16 日

- U ターンで戻られ、村の活性化に取り組まれている N 氏からお話を伺う。

聞き取り調査

土屋政策ゼミメンバー集合写真

聞き取り調査の結果

村では漬物工場誘致など経済政策で地域振興を図ってきたが失敗してきた。それに対して、和太鼓集団「鬼太鼓座」に所属するＹ氏のように、文化活動の誘致が地域活性化で成功してきた。

村では移住希望者は多くても、空き家の提供が進まず、需要と供給が不一致。村外の人々に先祖伝来の住宅を貸すのが難しい風土。

村の人々とのコミュニケーションが地域に溶け込むにはより重要視される。信頼で成り立つ地域社会。

村の中には 30 の文化サークルが存在するなど、文化活動が盛ん。

合宿を終えて

この三日間で、私たちは細川和紙作りを体験し、和紙の製作工程について学びました。周りの遺跡を見学し、地元の美味しい食事も楽しみました。

また、さまざまな方々にインタビューをしました。興味のために、何十年も続けている職人や、東秩父の経済を活性化させるため、少しでも自分が力になりたくて、移住してきた和太鼓奏者の夫婦、自分の故郷を一生懸命に宣伝し、もっと多くの人を移住させて、故郷を良くしたいと願っている若者などです。彼らは皆、とても素晴らしく、まるで輝いているように感じました。特に、故郷である東秩父を諦めたくないと言った若者の言葉を聞いたとき、私の心にも何かが響いた気がしました。

東秩父の自然はなんて美しいのでしょう。細川和紙作りの体験は、とても興味深く、貴重で、教育的な意味を持っています。

そして、この地域の人々はとても素朴で心温かいです。私は、細川和紙がもっと多くの伝承者を見つけ、その販路が広がり、効率を高めるためにより多くの機械が導入されることを願っています。もっと多くの学生が積極的に参加し、この無形文化財の魅力を感じ取ってほしいです。きっと、あなたも細川和紙のことを好きになると思います。みんなが東秩父村を決して諦めないし、私は東秩父村も必ずどんどん良くなると確信しています。（３年　女子留学生）

地元の人にとって、東秩父村はどうあるべきか。東秩父村の現状･村おこしのための解決策など、様々なお話をしっかりと聞くことが出来たと思います。東秩父村は消滅可能都市とされていますが、今回実際に訪れたことによって、東秩父村の魅力ややるべき事が沢山発見できたと思いますし、少しでも村おこしが出来る策を発見できたと思います。（３年　男子学生）

まとめ

土屋政策ゼミナールで取り組む文化財保存活用地域計画づくりは、指定文化財のみならず、「今」ある文化も射程に入れている。

村の文化＝和紙が全面に出がちであるが、実際には、多くのサークルが存在するように、各種の盛んな文化活動によって人々の信頼関係が構築され、山間地域での暮らしが成り立っている。

また、孫世代と祖母世代での伝統的な生活の継承が行われるなど、世代間を超えた交流も始まっており、外部からの人や文化の流入と合わせて、新たな村の文化形成が始まっている「今」を今回の調査で確認することができた。

和紙などのように目に見える「モノ」以上に、それにまつわる自然環境や生業、人々のつながりなど、地域社会総体を捉えようとする視点が、未指定の文化財の保護を含めた文化財保存活用地域計画づくりには不可欠である。

今後は「今」ある文化を活かしたまちづくりの実現に向けてのプレイヤーの存在を明らかにしていきたい。